

March 5, 2021

【前日の為替概況】ドル円、続伸 米経済正常化期待から米長期金利が上昇基調を維持

4日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続伸。終値は107.98円と前営業日NY終値(107.01円)と比べて97銭程度のドル高水準だった。米追加経済対策や新型コロナウイルスのワクチン普及による米経済正常化期待から米長期金利が上昇基調を維持。日米金利差拡大への思惑からNY市場に入っても円売り・ドル買いの流れが続いた。107.50円超えに観測されていたストップロス注文を誘発し、1時前には107.65円まで値を上げた。24時発表の1月米製造業新規受注が前月比2.6%増と予想の2.1%増を上回ったことも相場の支援材料。

パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長は討論会で「FRBは目標達成のために強くコミット」「依然としてFRBの目標には程遠い」と述べ、金融緩和の継続する姿勢を強調したものの、長期金利の上昇については「一過性のインフレ加速に対して我々は慌てない」「市場が秩序のない状況になれば問題視するだろう」と述べるにとどまった。市場では「金利上昇へのけん制が期待するほど強くなかった」として、米10年債利回りが一時1.56%台まで急伸した。これを受けて為替市場では全般ドル買いが活発化し、ドル円は取引終了間際に一時107.99円と昨年7月1日以来の高値を付けた。

ユーロドルは続落。終値は1.1969ドルと前営業日NY終値(1.2063ドル)と比べて0.0094ドル程度のユーロ安水準だった。パウエルFRB議長が講演でインフレ圧力の高まりに懸念を示さず、長期金利上昇の抑制策にも特に言及しなかったため、米長期金利が急上昇。主要通貨に対してドル高が進んだ流れに沿って、5時30分前に一時1.1962ドルと2月5日以来約1カ月ぶりの安値を付けた。

ユーロ円は小幅ながら3日続伸。終値は129.24円と前営業日NY終値(129.09円)と比べて15銭程度のユーロ高水準。ドル円の上昇につれた円売り・ユーロ買いが優勢となり、1時30分過ぎに一時129.64円と本日高値を更新したものの、ユーロドルの下落につれた売りが出ると上げ幅を縮めた。

カナダドル円は一時85.54円と2018年12月以来の高値を付けた。石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟産油国でつくる「OPECプラス」がこの日の会合で協調減産の1カ月延長を決めると、WTI原油先物価格が一時5%超上昇。産油国通貨とされるカナダドルに買いが集まった。

【本日の東京為替見通し】日本売りの悪い円安は継続か、米雇用統計・全人代開幕に注目

本日の東京時間のドル円は、引き続き堅調推移となるか。今週、バイデン米大統領が5月末までに米国の全成人にワクチンを供給できると発表したように、米国を中心に世界各国はパンデミック前の日常を取り戻そうとしている。その一方で、日本のワクチン接種件数は昨日4日時点で3万9174件しかない。たださえワクチンの確保が大幅に遅れた「負け国」の中でも、異常に少ない数値となっている。日本と同日の2月17日からワクチンの接種が始まった南アフリカが、すでに接種件数が7万件近くになっていることを考えると、日本は確保の遅れだけでなく、その普及率や接種率の低さも鮮明になっている。コロナ前も日本経済の停滞が指摘されていたが、経済の回復も多くの国より大幅に遅れることが予想されることで、日本売り・円売りという「悪い円安」が今後も続く可能性が高い。

中長期的な流れは日本売りで変わらないだろうが、ここ最近は一方向的に円安が続いていることで若干の調整は入るかもしれない。特に本日は米国の2月雇用統計の発表もあり、指標前後では乱高下をする可能性には警戒したい。今週に入り米国から複数の雇用指標は発表されたが、ADP全米雇用報告などは本日発表される雇用統計との相関性は全くないことで、予想より弱かったADPと同様に雇用統計が悪化するとは限らないことは念頭に入れておきたい。

また、市場の不安要素の1つとして、本日から中国全国人民代表大会(全人代)が開幕することがあげられる。バイデン政権になって以後も米中関係が悪化しているが、ここ最近では香港や新疆ウイグル自治区をめぐる人権問題を西側諸国が懸念していることで、全人代での中国の動きと、それに反発する米国などの動きは要注意となりそうだ。

ドル円以外の通貨もドル買いが昨日は鮮明だった。特にユーロ圏は金利高・通貨高に懸念を表明していることで、ユーロドルは上値が重くなるか。その一方で、ワクチン接種率が高い英国や、経済指標が好調なオセアニア諸国などの通貨は、比較的底堅い動きになる可能性もある。今後は金利上昇でドルが堅調推移も、各国の経済回復期待により通貨の取捨選択が、より分かれてくることになりそうだ。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 2月外貨準備高

<海外>

○16:00 ◎ 1月独製造業新規受注（予想：前月比0.7%／前年同月比1.9%）

○16:45 ◇ 1月仏貿易収支（予想：34.00億ユーロの赤字）

○16:45 ◇ 1月仏経常収支

○22:30 ◇ 1月カナダ貿易収支（予想：14.0億カナダドルの赤字）

○22:30 ◎ 1月米貿易収支（予想：675億ドルの赤字）

○22:30 ☆ 2月米雇用統計（予想：非農業部門雇用者数変化18.2万人／失業率6.3%／平均時給、前月比0.2%／前年比5.3%）

○23:00 ◎ ハスケル英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演

○24:00 ◇ 2月カナダIvey購買部協会景気指数

○6日 01:00 ◎ 2月ロシア消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.6%）

○6日 05:00 ◇ 1月米消費者信用残高（予想：120.0億ドル）

○6日 05:00 ◎ ポスティブック米アトランタ連銀総裁、講演

○中国全国人民代表大会（全人代）開幕

8日

<国内>

○08:50 ◎ 1月国際収支速報

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

4日 05:26 ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁
「2022年の利上げを予想せず」
「イールドカーブ・コントロールは可能な手段のひとつ」
「利上げがあるとすれば2023年末に向けてだろう」

4日 05:49 オア NZ 準備銀行(RBNZ)総裁
「任務を達成するためには、まだ緩和的な金融政策が必要」
「住宅価格のボラティリティがNZ金融システムの健全性にリスクをもたらす」

4日 07:54 メルケル独首相
「ロックダウンを段階的に緩和する道筋を設定する」
「予防接種はパンデミックから抜け出す方法」
「自分たちを後退させることなく開放するためのステップを踏む必要」
「10万人あたり感染者が50人を下回ると小売業を含めた緩和を検討」

4日 12:52 カーンズ豪準備銀行(RBA)金融安定局長
「現在の住宅価格は懸念していない」
「貸し付けの質は我々が見守る必要のあるもの」
「債券利回りの上昇は国際的な現象」

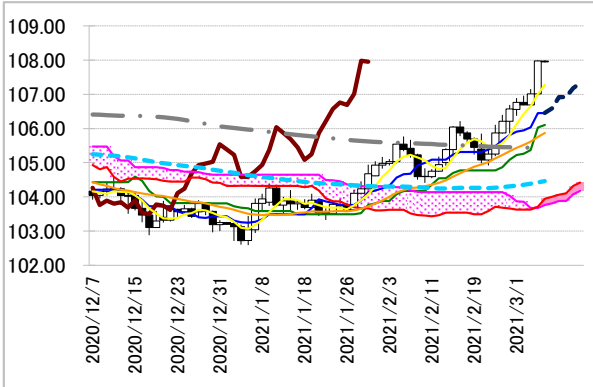
4日 17:42 クノット・オランダ中銀総裁
「欧州中央銀行(ECB)理事会での金利上昇に関する議論は、景気回復とインフレ見通しを反映したものだとの認識が土台となる」

4日 22:26 ショルツ独財務相
「2021年に追加の借り入れが必要となる可能性」

5日 02:11 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長
「FRBは目標達成のために強くコミット」
「依然としてFRBの目標には程遠い」
「インフレの上昇は一時的な可能性が高い」
「市場が秩序のない状況になれば問題視するだろう」
「最大限の雇用は年内確保の可能性は極めて低い」
「賃金の上昇を見極めたい」
「さらなる顕著な進展までしばらく時間がかかる」
「一過性のインフレ加速に対して我々は慌てない」
「最近の債券市場のボラティリティが気になる」
「FRBは条件が満たされるまで利上げを行わない」
「FRBの現在の金融政策スタンスは適切」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

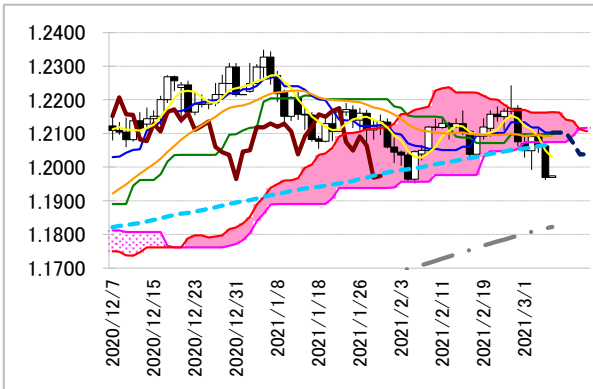


<ドル円=高値警戒の調整あっても下落幅の拡大は回避へ>

大陽線引け。足もとで昨年7月1日以来の108円台を回復する動きとなっている。

高値警戒感による調整の下押しがあっても、上昇中の5日移動平均線付近にとどまるか。割り込んでも、106円台で上昇傾向を維持している一目均衡表・転換線を下抜けることはないだろう。

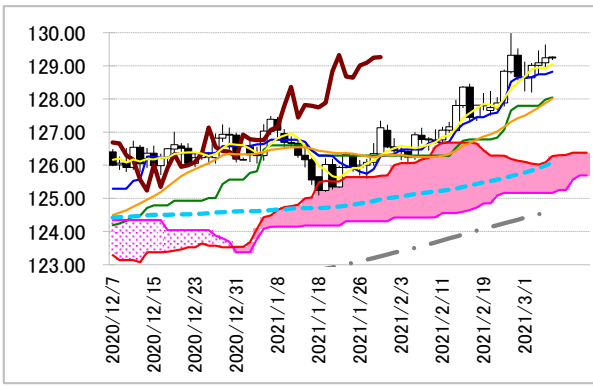
レジスタンス 2	108.67(ピボット・レジスタンス 2)
レジスタンス 1	108.23(2020/3-2021/1 下落幅の61.8%戻し)
前日終値	107.98
サポート 1	107.28(5日移動平均線)



<ユーロドル=年初来安値付近で不安定>

大陰線引け。一目均衡表・雲の下限 1.2075 ドルを回復しきれず、1.2060 ドル台の90日移動平均線も下抜けて下落が加速した。2日の下振れでつけた1.1992ドルを割り込み、一時1.1962ドルと2月5日以来、約1カ月ぶりの安値をつけた。年初来安値となる同日の1.1952ドルは抜けていないが、その他サポートとなりそうな目立った日足ベースのテクニカル指標は付近にない。安値更新をうかがう不安定な状態で、ピボットなど目的的なポイントも手掛かりに含め、落ち着きどころを探ることになる。

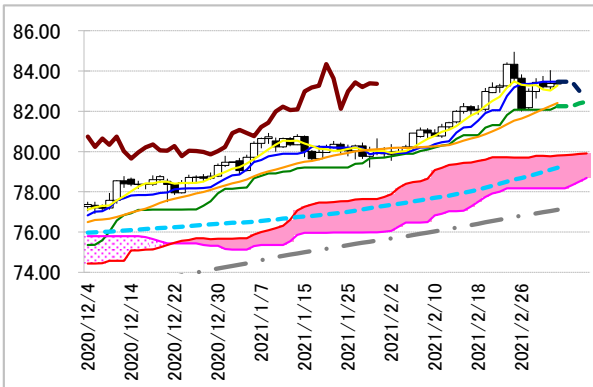
レジスタンス 1	1.2029(5日移動平均線)
前日終値	1.1969
サポート 1	1.1894(ピボット・サポート 2)



<ユーロ円=129円台で上ひげ形成、戻り売り圧力を意識>

上影小陽線引け。少しずつ戻りを試しており、一時129.64円まで上昇した。しかし、押し戻されておき、長めな上ひげをともなう足型を形成。2月25日につけた年初来高値129.98円付近の売り圧力を感じさせる。底堅いながら、年初来高値や昨日高値が位置する129円台で戻りの鈍い推移が続くか。下ひげをつけて下げ渋った3日安値128.74円や2日安値128.19円付近へいったん下押し展開も想定しておきたい。

レジスタンス 1	129.64(3/4 高値)
前日終値	129.24
サポート 1	128.74(3/3 安値)



<豪ドル円=基準線と21日線が底割れを防ぎそう>

上影小陽線引け。現水準83.47円から低下へ向かう公算の一目均衡表・転換線を一時は上回ったものの、押し戻された。転換線は現状からすれば、来週10日には83.01円へ低下する見込み。同線と82円台で上昇中の一目・基準線に挟まれたレンジ中心の推移が続くそう。ただ、基準線付近に位置している21日移動平均線も支えになると考えられ、底割れ状態になることはないだろう。

レジスタンス 1	84.04(3/4 高値)
前日終値	83.39
サポート 1	82.63(3/2 安値)

